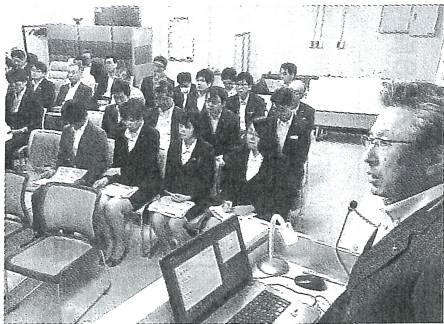


外業増で危険要因変化

ダイシン設計が労働安全講習会

協力会社含め認識共有重要



業務環境の変化に伴い労働安全の認識を深めた

十九年度労働安全講習会を開き、札幌中央労基署の担当者を招いて労働災害防止への理解を深めた。本社、深川支店の役員約六十人が参加した。

ダイシン設計(札幌、村口明社長)は十一日、札幌市内の第二道通ビルで二は、同社受注業務に占める

外業の割合が平成二十六年度を境に増加傾向にあると指摘。従来の測量・地質調査から点検・補修ヘシフトし、点検・補修業務の純増による外業の増加に伴い「高所作業や狭小空間での作業、夜間作業等が増え、危険要因にも変化がみられる」とした。

話した札幌中央労基署の富塚豊安全衛生課長は、電通社員過労自殺や函館山ロープウエー従業員死亡事故を例に、労災や過重労働等の企業責任について解説。工事現場等での労働災害事例を紹介し、災害未然防止のための対策を例示した。

作業環境、作業形態の変化に伴い「工事に準じた安全管理が不可欠になる」と述べた田村氏は、協力会社を含めた労働環境の把握とともに「安全大会の充実を図り、労働安全に関する認識の共有を図ることが重要」と強調した。

職場における心の健康づくりに向け、富塚課長は小規模事業場におけるメンタルヘルスケアの取組内容などをアドバイスした。講習会は、近年の業務内容の変化に伴い、初めて実施。今後は労働安全マニュアルの整備等にも取り組む。